

～オーロラと宇宙シンポジウム～

国際共創による 火星探査の最前線と今後

申込不要・無料

2/20 (火)

16:30～18:00

成蹊学園
本館大講堂

近年、中国やインドだけでなく、UAEなど、様々な国が宇宙や火星探査に進出しています。新たな「火星オーロラ」の観測も報告されています。アルテミス計画も始動し、月や火星探査は、国際共創と国際競争の時代になっています。現在、日本（JAXA+大学等）、ESA（European Space Agency）、NASAによって進められている火星観測や今後の探査計画などについてご紹介します。

講師：中川 広務 氏

（東北大学大学院理学研究科
地球物理学専攻准教授）

進行：藤原 均

（成蹊大学理工学部教授）

<講師紹介> 中川 広務（なかがわ ひろむ）
2007年東北大学大学院理学研究科地球物理学
専攻博士後期課程修了，博士（理学）NASA, ESA,
JAXAなどと協力して国内外の火星探査ミッション
に数多く参画，火星研究の国際共創の一躍を担って
いる。NASA火星探査衛星MAVENのParticipating
Scientist，欧州火星探査衛星TGOのサイエンスメン
バー，MMX搭載赤外分光器MIRS日本側代表（Co-PI），
欧州次期火星探査計画M-MATISSE火星オーロラカメ
ラ機器開発責任者（PI）。

トロムソ（ノルウェー）のオーロラ

